

平成26年7月4日

福生市議会議長 乙津 豊彦 様

建設環境委員長 清水 義朋

平成26年 福生市議会建設環境委員会行政視察報告

本委員会は平成26年度行政視察を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1、視察日程 平成26年5月14日（水）～5月15日（木）

2、視察先及び目的

（1）兵庫県加西市

第三セクター北条鉄道と住民の連携によるまちづくりについて

（2）兵庫県赤穂市

①公園施設管理について

②赤穂市の都市景観について

3、視察参加者

委員長	清水 義朋
副委員長	柳川 英司
委員	乙津 豊彦
委員	大野 悦子
委員	堀 雄一郎
委員	町田 成司
随員	大内 博之（議会事務局議事係）

#### 4、視察先について

兵庫県加西市は県南部に位置するまちで、隣接する姫路市のベッドタウンという位置づけが強いまちとなっている。人口約46000人、市の面積約150km<sup>2</sup>のまちで、玉丘古墳群などの歴史的史跡もあり、その中に登場する人物「根日女（ねひめ）」の名前の付いた施設（ホール）なども存在する。市内では米、またブドウ「加西ゴールデンベリーA」なども取れることから日本酒、ワインの醸造もされている。他に第3セクター重度障害者多数雇用事業所となる播磨三洋工業株式会社（パナソニック系列）などもあり、家電製品などの製造業も主な産業の一つとなっている。今回の視察では、第三セクターで運営されている北条鉄道について、市民と連携し整備、まちづくりの状況について視察を行いました。

兵庫県赤穂市は加西市同様、県南部に位置しており、西側は岡山県、南は瀬戸内海とも接しております。人口は約49000人、市の面積は約127km<sup>2</sup>となっており、伝統産業でもある広大な塩田があったことから塩製造を古くから行っており「赤穂の塩」として全国的にも有名なまちである。かつての塩田跡地は現在では工業用地などに転用され、播磨臨海工業地帯の西の拠点ともなっていて、企業誘致も積極的に進めています。歴史的には忠臣蔵として語り継がれる赤穂義士のまちとしても有名であり、赤穂城址をはじめとした史跡も多く存在しています。また市の東側では海運業も栄えていた時代があり、歴史的景観が残された地区が存在しています。その一部では都市景観100選にも選ばれた地区もあり、その保存と活用にも積極的に取り組まれています。今回の視察ではそうした歴史地区の保存活用の取り組みと、市内の公園の一体管理について視察を行いました。

#### 6、視察報告

(1) 加西市：第三セクター北条鉄道と住民の連携によるまちづくりについて

##### 加西市 対応者

・加西市議会	議長	森元 清蔵 様
・ふるさと創造部人口増政策課	課長	千石 剛 様
・ふるさと創造部人口増政策課	課長補佐	小山 健一 様
・北条鉄道株式会社 取締役 副社長		佐伯 武彦 様

・北条鉄道株式会社 取締役 総務企画部 部長 高井 均 様

<北条鉄道株式会社>

ご挨拶をいただいた、加西市議会議長 森元 清蔵 様。

左隣りは、北条鉄道株式会社取締役副社長の佐伯 武彦 様。



現在の北条鉄道は第三セクターで運営されており、社長は株式の保有の一番多い加西市の市長が兼務で運営されている。加西市のほぼ中心に北条町駅があり、本社機能とともに下り線の終点の駅として存在し、そのほかの全駅（7駅）が無人駅となっている。もともとは播州鉄道株式会社として大正2年8月に発足し、2015年には鉄道100年となる歴史ある鉄道となっている。その後、昭和18年の国鉄に所有となり、昭和55年には国鉄再建法により第1次特定地方交通線に指定され、当時の利用者数は一日平均、約1600人ほどであったようである。昭和59年10月に北条鉄道株式会社が設立され、昭和60年4月から北条鉄道として営業が開始された。

会社の概要としては、資本金1億円、社員数15名のうち4名が女性社員とのものである。女性社員4名の内、2名が運転手ということで、メディアにも注目をされたということである。主な業務は、地方鉄道業の他に加西市からの委託業務として観光案内所の運営などもされている。

旅客の割合は、50%が市内外に通学される学生。通勤などの利用は10%以下ということで、学生の利用にはかなり頼っている様子がうかがえる。

### \* イベント列車について

利用者増を目的に、様々なイベント列車の運行をされており、状況を伺った。

現在、北条知事は3車両を保有しており、かつ全線が単線のため各駅などですれ違うことがなく、ダイヤはすべて往復のダイヤとなっている。利用者の方々は途中で降りられる方を除けば、必ず各方向の始発駅から終着駅まで利用されるので、そうした環境を利用され、イベント列車が運行されている。

春にはさくら列車ということで、各駅周辺の桜を見ながらイベント列車の運行、またさくらまつりを開催している。

夏にはカブトムシ列車ということで、児童などにカブトムシのペアをプレゼントするような企画をされている。また、北条鉄道祭りとして市内の広場などを利用してミニSLを走らすなど、利用者増に向けた取り組みをされている。

冬にはサンタ列車ということで、クリスマスシーズンに駅舎などをイルミネーションで装飾したり、社員さんなどがサンタなどの衣装を着て利用者を楽しませるような企画もされている。こうした模様はテレビの全国放送で生中継などもされたそうである。



さくら列車、また桜まつりを盛り上げるために新たに協力をいただき植樹された桜の木。

同時期に菜の花列車の運行も企画され、沿線には菜の花も植えられたとのことである。

### \* 駅舎利用について

各駅舎については非常に歴史ある建築物となっており、いくつかの駅舎は有形文化財登録もされる駅舎となっている。逆に、利用者にとっては不便なところも多く、無人駅でもあることから不良等のたまり場となり、イメージは決して良くない面もあったとのことである。先にふれたように、通勤客の利用を考え、駅でのすれ違いができるように交差駅の検討もされたようで、試算したと

ころ、駅周辺の土地はあったため工事費は約3000万円ということであるが、信号線などの引き直しには2億7000万円程の経費を必要とし、採算の面から外された。

次に考えられたのは利用者のためにトイレをきれいで最新のものにすることを考えられ、地元業者の方々の協力も得ながらトイレ新委員会を作り、ウォシュレット、ヒーター付きのトイレなどの設置となった。

最初につくられた後に税制上の課題が見つかり、それは鉄道側の資産扱いとなってしまう、そうすると補てんの減となる、また税金の対象資産となるなどの課題が見つかり、それ以降は市とも掛け合い、市の公衆便所扱いとすることで切り抜けたそうである。トイレ新委員会も市の方へ。



トイレ新委員会さんの、ご苦労が伺える、駅舎の隣に設置されたトイレ。

名盤も設置され、労働のご奉仕とご寄付された方々の名前が残されている。

トイレ、またその周辺の清掃、整備をされているボランティアの方々。周りにはごみ一つ落ちていないことなくきれいにされていて、花や植物も整理されながら植栽されています。



## \* ボランティア駅長について

先にも触れているが、北条町駅以外の駅は原則無人駅となっている。平成18年よりボランティア駅長の誕生となるが、そのうちの2つを現地視察することができた。

播州下里駅では、大阪の方から月に数回、お寺のお坊さんが見えられ、色々な相談事や利用者との対話を重ねられているそうである。



播州下里駅でボランティア駅長さんのお話を伺う。お坊さんだからと言って、難しい話をするわけではなく、世間話や鉄道好きな方も見られるので、そうした話の方が多いということでもあるようです。当、委員会の他に一般の方も見えられていました。



法華口駅につくられたパン工房運営はボランティア駅長さんがされている。

駅舎の中ではイートインスペースが設けられており、周辺の案内図なども置かれている。



こうした取り組みを熱心に重ねられている様子は、鉄道を利用する方々だけではなく、周辺の住民にも様々な広がりを見せ、駅舎、トイレの一新だけではなく、各駅の時期に応じた花の植栽や清掃、また石庭を作ることを提案された企業の方も出てこられ、実際に作られたり、西国三十三所の一つ、法華山一乗寺には有名な三重塔があることから、そうした三重塔を寄付したいと自元大工さんもおられ、先のパン工房のある法華口駅には三重塔が建立されている。

そのほかにも、ボランティア駅長さんによる週末駅中英会話教室なども行われている駅もある。

#### \* その他の取り組み

- ・ 枕木応援団 枕木は定期的な交換が必要であるので、1本4500円で応援団員となることができ、メッセージプレートの貼りつけや、その他の特典がある。
- ・ 子ザル駅長 月に数回、子ザル駅長と称し、制服を着た子ザルが乗車をする。一緒に乗ることで写真を撮るなどをされている。
- ・ サイクルトレイン 自転車をそのまま持ち込むことができ、なおかつ加西市にある史跡などのサイクリングを楽しんでいただく企画。
- ・ 物品販売 北条鉄道に関するグッズの販売
- ・ 社員の給与体系 社員の給与体系を一般的なラインに近づけ、働き甲斐のある、またそうした意識を持っていただくことで、どうしたら利用が増えるかを全社員で考えるようになったそうである。

## \* 所感

佐伯副社長も熱を入れてご説明いただいたが、加西市も人口減少の影響は少なからずあるものの、公共交通、医療福祉、教育を良くしなければまちは良くならないというところを見させていただいた。現状、約1600万円から1800万円の年間の赤字で推移しているということで、そのうちの約1050万円は鉄道事業による固定資産税。約700から800万円が市からの補てんという経営状況で、加西市の人口の内、約3万人の方が年間で一往復することで、収入は約1800万円となり赤字から抜け出せる数字となる。決してそれは実現できない数字ではないと、おっしゃっていました。

国鉄の廃止から第3セクターとして運営しているが、仮にバス路線への切り替えとなった場合、路線価の減にもなることからこうした鉄道事業はまちのためにもなくてはならないということでありました。

他にも枕木応援団として、市民をはじめ企業から寄付をいただき、いただいた名前を名板にして枕木に取り付け、後日その写真と礼状を届けるなど、利用される方のリピーターを増やす企画は相当考えられている様子が伺えました。まだまだこうした取り組みによる成果は、満足できるものではないということでありましたが、住民の参加の度合いや北条鉄道に対する意識の高さは、非常に参考となるものでありました。

福生市を見てみれば、コンパクトなまちに5つの駅が存在し、そのうち2つは無人駅（委託駅）であり、第3セクターとJRという大きな違いはあるが、こうした地域の動脈である鉄道事業に住民の方が参画し盛り上げていくことは、まちにとっても大きな成果となることが今回の視察で感じられた。実際には管理の形態から難しいところはあるが、周辺整備も含め、利用する方々が気持ちよく使っていただくにはそうした環境を一番よく知るのは周辺の方たちであると思うところであり、そうした方々を巻き込む施策は他のところに活かせるものでもあると感じるところである。

なにはともあれ北条鉄道株式会社の視察においては、非常に熱い思いをもって、またバイタリティのある佐伯副社長さんの発想には非常に勉強となる部分が多くありました。感謝を申し上げます。



- (2) 赤穂市：①公園施設管理について  
②赤穂市の都市景観について

赤穂市 対応者

赤穂市議会議長	重松 英二 様
建設経済部都市整備課課長	小川 尚生 様
建設経済部都市整備課計画係長	沼田 幸治 様
建設経済部都市整備課整備担当係長	坂本 良広 様
議会事務局総務課長	橋本 政範 様

<赤穂市の公園施設管理について>

赤穂市の公園の概況は、いわゆる街区内に居住する方の利用を目的とした公園（街区公園）が33カ所、近隣に居住する方の利用を目的とした公園（近隣公園）が2カ所、そのほかに総合公園として県立公園も含めて5カ所となっている。児童遊園については126カ所ということであり、以前は福祉担当であったものから都市整備担当の方に所管が移されている。市民一人当たりの公園面積は37㎡ということで、福生市の場合公園の数は75カ所、一人当たりの公園面積は約6.6㎡なので、我が市と比較すると非常に余裕があることが伺える。

赤穂市の都市公園、児童遊園ともに指定管理者によって行われている。相手先は「赤穂市文化とみどり財団」が一手に維持管理を行っている。その内容はいわゆる施設の維持管理（遊具の点検など）や環境を維持（植栽の剪定やグラウンドなどの除草など）するための保守管理業務。トイレや施設の清掃など日常的な業務を行う清掃業務の2点ということである。

指定管理の委託料については概算で年間約1億円ということである。

公園遊具は市内に約150期あるということで、2か月に1回の日常点検（目視や触手などの点検）は、指定管理者である財団が行い、1年に1回の劣化診断については業者に発注している。この劣化診断については、専門技術者（公園施設製品安全管理士などの資格を有する者）が目視や触手、聴音、揺動診断を実施して点検を行うもので、約300万円の診断費用となっている。

この調査をもとに次年度以降の遊具の管理や撤去などの判断を行うもので、その為の判断材料となっている。

こうした遊具などについては管理主体である財団、また市の方でも点検等しているものの、目が行き届かないところがあるのが現状のようで、地域の方から連絡また苦情が来た時には対応できるように連携できる体制もとっている。

赤穂市の公園についても近年は苦情が多くなっている傾向にあるとのことである。公園での遊び方の変化や、高齢の方がグランドゴルフなどをするといった様子についてもそうした変化が取れるということで、以前ならばそうした利用者が自主的に維持管理の面で面倒を見ていたところから、近年では行政の方にダイレクトに要望が来るようになってきている。そうした対策の一つに公園での看板設置や利用の啓もうをされているということである。

公園管理について、約1億円と大きな費用をかけてなぜ指定管理なのかと疑問もあったが、これについては市の方の方針ということであり、こうした考え方があるというのは、我が市と違うところと感じた。

#### <赤穂市の都市景観について>

赤穂市は兵庫県の西の端に位置し、南側を瀬戸内海、三方を山に囲まれた地形となっている。まちの中心には2級河川の千種川（ちくさがわ）が流れている。まちの中心地は播州赤穂藩の城下町として栄え、そうした背景から都市景観の形成に対する動きとなった。平成2年には赤穂市都市景観に形成に関する条例を施行。平成4年には酒蔵を中心とした坂越（さこし）地区を1カ所目となる市街地景観形成地区に指定。平成10年には赤穂城跡からなるお城通り地区を、2カ所目の市街地景観形成地区に指定したところとなっている。

#### 景観形成の考え方

##### （坂越地区）

歴史的、文化的な環境を最大限に利用しながら風格と潤いのあるまちづくりを目標としている。坂越地区は瀬戸内海と千種川に挟まれた地域で、千種川では江戸から明治にかけ高瀬舟によって上流との物流の拠点ともなっていた。瀬戸内海側では海運で栄え、400年を超える酒蔵も存在する。こうした環境から景観形成基準（整備基準）を設け、建築物の規制を行っている。

### （お城通り地区）

赤穂城跡と播州赤穂駅をつなぐ道で、市のシンボルロードともなっている。忠臣蔵のふるさとにふさわしい歴史あるまちを目標に、延長約400mの道を指定している。赤穂浪士、大石内蔵助の打ち入りで有名だが、こうした歴史的文化的な背景とともに個性ある都市景観をつくることを目標としている。

沿道には商店も多数あることからお城通りまちづくり推進協議会などから意見を聴取し景観形成基準を策定している。坂越地区とは違い歴史的な建物はほとんど残ってはいなかったとのことであるが、和風の建築とすること、商店などもそうした基準に添って屋外広告物などを整備すること、また歩行空間も確保（以前は6m）することなどから、観光客も含めだれでも安心して通れる歩行空間とした。平成18年にはこうした取り組みが、全国街路事業推進協議会が推進する全国街路事業コンクールで優秀賞を受賞するなどしている。

### \* 酒蔵を中心とし市街地形成の概要について

#### ・ 地区整備について

市の方では以前はアスファルト舗装であったところを、美装化し案内板の設置や、ポケットパークの設置を実施した。また景観形成助成金として1戸当たり300万円を上限として助成を行っている

#### ・ 住民参加の状況について

地元自治会をはじめ商工会議所なども参加しているが、PTA、郵便局なども参加しているところはユニークな点とも思える。約40名で坂越のまち並みを創る会として発足している。

#### ・ 整備の効果・課題について

古いまち並みが維持できるようになったため、観光客の増加には寄与しているとのことである。

しかしながら地区の住民の高齢化もあり、そうした整備の滞っているところも出てきたり、空き家対策について課題が残っているとのことである。中には廃墟化したところもあり、課題である。

## 現地視察（坂越地区）



美装化された坂越地区の  
道路とまち並み

坂越まち並み館  
地区の方がボランティアで  
ガイドをされている。  
以前は銀行の支店であった  
建物で、当時の金庫がその  
ままのこっている。



平成9年に都市景観大賞  
に選ばれている。



右側は400年以上の歴史を持つ、奥藤酒造。郷土館も併設して現在も酒造りを行っている。

以前は庄屋も務め、現在は奥藤商事株式会社となっている。

#### \* 所感

赤穂市の公園管理については、公園管理、文化振興、学校のクラブ活動の支援など、幅広く事業をしている公益財団法人赤穂市文化みどり財団が管理をされ、ある意味市から手の離れたところで管理されている。このことは、公園管理とともに緑化啓発事業を進める赤穂市の方針として一つの方法として参考になるところであった。樹木選定の講習会や市民参加による花と緑のフェスティバルもこうした事業の一環であって、我が市に置き換えてみれば市の直営で行っているところではあるが、若干担当部署が違うところを一貫して行えるメリットが感じられた。天候の影響で現地視察が出来なかったのは残念である。

都市景観形成については、何にしても地元の理解があることが視察を通じて感じられた。規模の大小にかかわらず、こうした整備については市の方針と地元の理解なくしては出来ないもので、現地視察をさせていただいた中でも地元のボランティアの方々の積極的な関わりを見ると、合意形成がされている結果であると感じた。今回の視察では2つの指定地区の内、歴史的空間を活かした、また酒蔵を中心としたまちづくり景観形成地区を実際に見させていただいたが、我が市にも似たような風景を感じられ、参考となる点が多いと感じた。報告の中でも触れたが、庄屋も務めた名士が積極的に関与している、その結果古くからの文化的なものも維持をされている点は参考になりました。